



# さんが

第 七二 号

平成 二四 年  
西暦 二〇一二年  
正月 号

曹洞宗 東運寺

住職 柳田彰宣

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三二-五七二五

E-MAIL [sanga@tounji.net](mailto:sanga@tounji.net)

## 謹賀新年

玉龍山東運寺



いつも年末に話題になる「今年の漢字」 昨年は「絆」でした。東日本大震災や、なでしこジャパンの活躍にちなんだものだと言われています。

ただ、震災から起きたことには、強い不安や憤りをお感じになる方々がたくさんいるでしょう。そういう意味では「絆」の字には、いつまでも忘れないでいて欲しいという、願いが込められているのかも知れません。

震災に限らず、傷ついた心に寄り添おうとするむずかしさが、ここにあるような気がします。

いつかみんなが、無理しなくても笑顔になれると、きが来るようにと、ただただ願うばかりです。

ご本尊さまのもと、東運寺も新しい年をむかえました。檀信徒皆さまのご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

「縁を深く信ずれば、自ずとやることは見えてくる」  
ある和尚さんが、ふと漏らされた言葉です。

ただ「縁を信じる」とは、耳ざわりがいいわりには、  
わかりにくい言いかたかもしれません。

縁とは、夫婦の縁か親子の縁か、友だちの縁かご近所の縁か。その縁を、どうしてわざわざ信じなくてはならないのでしょうか。いい縁ならいくらでも信じたい。でも、悪い縁を信じたくはないですよ。

しかし、生きていけばいい縁も悪い縁も必ずついてきます。愛するものと出会う縁、別れる縁。病気になる縁、治る縁。人生の経験を積む縁、その分年老いる縁。

こうして見ると、いいだけの縁、悪いだけの縁というのは、どうもないように思います。ひとつの中に、いい縁も悪い縁も両方入ってしまったっているようです。

やってくる縁をどう受け止めるか。これが、考えるポイントかと思えます。

思わぬ不幸、試練ととるかステップととるか。

棚ぼたの大成功、チャンスととるか警告ととるか。

当たりまえの日常、かけがえのなさに気づくか。すつと通りすぎてしまうか。

この取りようが、そのまま縁の中身になろうかと思えます。信じるとは、その縁が自分の人生にとって何であるのか、そこに気づくことでしょうか。

信じる中身は、次の行動の基準になります。信じる中身によって、行動の結果は変わるかも知れません。変わらないかも知れません。

ただ、結果を受け止める気持ちは、ぐっと変わってくることでしょう。縁を深く信ずれば、自ずとやることは見えてくるのです。

## ◎ 年回法事の案内について

年回にあたっているお宅には、一昨年よりこのお便りに同封して、ご案内を差し上げております。ご確認どうかよろしく願います。

土日・連休などは、ご希望に添えない場合もあります。日程のご希望があれば、早い目にお寺へご連絡下さい。

